

令和3年度(2021年度)第3回宗谷圏域障がい者が暮らしやすい地域づくり委員会議事録

- 1 日 時 令和4年(2022年)2月18日(金) 13:30～14:40
- 2 場 所 オンライン(zoom)開催
- 3 出席者 別添「出席者名簿」のとおり
- 4 議 題 別添「次第」のとおり
- 5 資 料 別添のとおり
- 6 挨 拶

影山社会福祉課長より開会の挨拶を行った。

7 議 事

(1) 報告事項

報告事項1の、地域課題解決に向けた取り組み実施の進捗状況について、資料1-1～1-4のとおり事務局より説明を行った。

(2) 報告事項について各委員等からの意見

〈千葉委員〉

ホームページの更新頻度は、どのくらいと考えているか。

〈大橋主査〉

更新に関しては、事業所のご要望、例えば、新しい販売品目が増えた、写真を入れ替えたいといったご要望を受けて、随時編集したいと考えている。

また、予定だが、最低年1回は内容の確認を事業所に依頼したいと考えている。

(3) 協議事項

協議事項1の、地域課題解決に向けた令和4年度の取り組み案について、資料2のとおり事務局より説明を行った。

紙媒体による広報は現在のところ計画していないが、今後実施することとなった場合は、資料1-4を活用して原稿を作成する旨を併せて説明した。

(4) 協議事項等について各委員等からの意見

〈大谷推進員〉

ただいま説明のあった取り組み案は、本日内容を協議いただいた上で、次の委員会につなげていきたいと考えている。ご意見、ご質問等お願いしたい。

また、この取り組み案以外についても、来年度にぜひつながりたいご意見があったら、お願いしたい。

〈黒川コーディネーター〉

この2年間の中で一番大きかったと感じているのが、資料2の冒頭の地域課題。

就労支援、そして相談支援体制の充実強化が、私がコーディネーターを受けてから、ずっとこの広域の地域の課題ということで協議のテーマになっていたけれども、令和2年度から新たに、障がい児者と地域住民の相互理解、これが加わったのがこの委員会で大きかったと感じている。

そもそもこの地域づくり委員会が、北海道障がい者条例に位置づけられてるけれども、条例でも障がいの理解だとか、そういったところをととても大切にしているので、これ自体を課題に取り上げて協議できたこと自体が、とても意義があったと感じている。

そして、コロナ禍ということで、いろいろな案をいただいて検討していたけれど、なかなか実施できなかった部分が多々あるのは、仕方ない部分でもあり、残念な部分でもあるけれども、できた部分とできなかった部分について、引き続き来年度以降も、もしかしたら新たな地域課題等の検討も出てくるかもしれないけれども、基本的には2年間検討してきた流れをつなげていければと考えている。

具体的なところについては、また委員の皆さんからのご意見もいただきながら、検討していきたいと思う。

〈内田委員〉

近隣の市町村でコロナの感染が広がったということもあって、管内での行き来もなかなか難しい状況の中で、インターネット媒体を利用した今回の製品PR、ナイスハートネット北海道の方もあるので、宗谷はそれを強化して就労B型の事業をPRしてくれるということを、非常にありがたいと感じている。

一方、（障がい）児者という、いわゆる当事者性を考えるのであれば、もう少し広い視点に立って、事業所単位だけではなく、例えば、保護者の会であるとか、職親の会であるとかの活動を紹介していく側面もあってもいいのではないかなと思う。

管内でそういった活動をされているところには、隠れていてまだ目の目を見てないような取り組みもあったりもするのではないかなと感じている。

当事者の会というのがあって、人権のこととか、権利侵害についての啓発の取り組みもしている。そういった会の活動とかのPRを来年度以降させてもらえたらと思う。

〈小倉委員〉

まず資料を見て、事業所の紹介のページはすごくいいと思う。

さらに、QRコードでその事業所にすぐ飛べて情報が見れるというのは、とても便利だなと思った。私自身もこの資料を見て、すぐに読み取って、使い勝手のよさをすごく実感した。

この委員会で、話し合われたことがすぐに反映されて、さらに視覚化もされるなどの迅速な対応は、保護者から見ても、とてもありがたい。

当事者の家族としても、ここの事業所はどういうものをコンセプトにしているのかとか、どういう作業してるのかなど、事前に情報が見れるのが、とても助かる。

実際に事業所の見学も必要だが、コロナ禍ですぐには行けない状況や、頻繁に見学に行くことで利用者さんの負担にもなる。事前に情報を得て方向性を考えたり、こういう事業所もあるとわかれば、親子ともに安心材料の一つにもなり、今まで知らなかった事業所を知る、とてもいいきっかけになると思う。

また同時に、ホームページを見ることによって、授産製品自体にも注目が行くし、実際に購入するケースに繋がる可能性もあって、今のこのネット社会で、その授産製品が拡散されて、さらなる周知にも繋がったりすることで、売り上げの増加、しいては利用者さんの工賃アップにも繋がる。

就労支援の方ももちろんだけれど、（障がい）児の方、児童発達支援センターや放課後デイサービスの情報がわかるようなものがあればありがたいと思う。当事者家族には、幼児期は、我が子の未来への不安、そして現状の困り感、小学校高学年ぐらいからは、子どもの特性が少しずつわかって、我が子には将来への選択肢にどんなものがあるとか、情報がわからず不安を感じることがある。

この、障がい者が暮らしやすい地域づくり委員会のサイトを見ることによって、少しでも当事者家族のヒントが見つかって、さらに、宗谷管内に転入してくる方たちへの情報源になれば、嬉しいと思う。

あとは、私自身は親の会の代表を務めていたが、このような委員会があるということは、大谷推進員からお話を聞いて知ったというのが本当のところなので、まずはいろいろな場所への委員会の周知の徹底をお願いしたい。

せっかくいろいろ動いていただいて、すごく便利なホームページまで作っていただいているのに、関係者や、当事者家族にさえ、その存在が知られていないのがとてももったいないというのが、私の思いである。

〈大谷推進員〉

ホームページはこれから公開することなので、令和4年度はより充実して、より良くなっていただければいいと思うし、いろいろなことできない中で、ホームページが公開されたことは一つの実現できた形として、より良くなっていくのだろうと実感している。

〈千葉委員〉

このホームページ、良い出来栄えだと思う。

昨日内閣府の、障害者差別禁止法の北海道ブロックの研修を受けて、障がい者への合理的配慮が3年後事業者に義務化されるというお話を聞いた。

この会は、障がい者が地域で暮らしやすい委員会なので、そういった権利擁護等のことも勉強させられた。仕組みとか、課題とかは、今後できるかわからないけれど、そういうところにも目をむけて、この委員会がすごく活性化することができればいいと思う。

このホームページの障害者優先雇用調達法について、制度化されたのは多分10年前ぐらいだと思う。できたときは少し盛り上がり話題になるが、時間が経つと、薄れていくような気がするの、ここに載せてくれたのはすごくありがたいと思う。

〈池田委員〉

私は昨年の4月から1年間委員を担当し、コロナ禍ということもあってイベントの開催とか、そういったところがなかなかできず、非常に残念に思っている。

ただこういう状況だからこそホームページを作ったりしてPR活動を進めたりとか、各事業所さんに参加意向調査を行ったりとか、そういった、今後の土台づくりということができた1年だったのかなと感じている。

今後に向けてということで、取り組み案のとおりで概ね良いかなと思っているが、ホームページの方を見ると、障がい者の暮らしやすい地域づくり委員会では、差別、虐待などの解決に向けた協議あつせんを行いますとか、差別や暮らしづらさに関するご相談もお聞きしますと記載されている一方で、どのようなことをしてくれるのかというところが具体的に見えづらいところがまだあると感じているので、今後は、この委員会の意義というものも、いろいろな形で、ホームページや紙媒体でPRできたら、この委員会をもっともっと利用してもらえと思っている。

〈大谷推進員〉

今、皆さんの前向きなご意見の中で、当事者としての広い視点だとか、権利擁護に繋がることだとか、将来の選択肢になるような情報提供だとか、それを委員会の意義を含めて発信していけたらいいとか、来年度に向けて、とてもいろいろなPRができるのではないかと私は受けた。

また、コロナ禍でいろいろなことができない中でも、土台づくりができたというのは、工夫をすればいろんなことができるということと、ホームページが実現できたというのは、皆さんの協力と事務局の頑張りで実現できてよかったと思っている。

それを次年度に向けて、さらに充実させていただければいいと感じた。

〈加藤委員〉

今年度コロナ禍で、具体的なことができないという状況の中で、本当に少しずつ、そして改善しながら、作ってきたということは、すごい意義あることだなと思っている。

チラシ（資料1－4ホームページの掲載イメージ）もだけれど、最初のスタートのときから一つ一つ、皆さんが出してきた意見が、具体的になったということ。

やらなければいけないことを前に持っていくというのが実現されていると思った。

〈大谷推進員〉

これまでの地域課題に加えて、障がい者と地域住民の相互理解ということで進めてきたことを、令和4年度に向けてさらに充実させていくということだけでも、多分、やり方は本当にいろいろあって、状況がどうであっても、皆さんの知恵を一つずついただければできるんだというのは本当に実感しているので、貴重なご意見をどんどん、事務局の方にいただければと思う。

事務局も複数体制で、それぞれ、得意分野を生かして、よりよいものにしていた。

本当にホームページは見やすく、やさしいわかりやすい感じで、できてよかったと思っている。

〈加藤委員〉

私は学校サイドだったので、（委員会に）数年間参加してみて、就労するためとか就労した後ということを、改めて学んだ。

障がいのある子どもたちや児童生徒の、自身やその親御さんたちが、自分の障がいというか自分らしさを受け入れて、そしてどんなところと繋がっていけばいいかというところを、受け止めて広げていって、そして就労に繋がっていく。

その段階で、子どもと親御さんや家族の人たちが、道の今どこにいるのか、そして、窓口はどこなのかというのが、わかりやすくなればいいなと思い、教育現場の人が学ぶべきだし、そして伝える術を持つべきと思いながら、参加してきた。

きっとこの（委員）会のように、ただ、道のいろいろな場所や役割で、働いて、活躍されている人たちがいるということが、教育現場の人や親御さんや子どもたち、家族の皆さんに見えて、そして活用できるにはどうしたらいいのかというのは、これからも自分の課題として、その繋がりを具体的にしていきたいと、改めて思った数年だった。

〈大谷推進員〉

この委員会の良さは、本当にいろいろ、経験が違う、立場が違う、職務が違う皆さんが同じく、障がいについて、良くなるように考える人の集まりだというのは間違いないことなので、その繋がりを今後も十分活かしていけたら、その人その人の人生の中で、所々の関わりかもしれないけれど、そういう人が何人もいるということが、例えば1人が就労したらもうそれで終わりじゃなくて、次々あることなので、限りなく皆さんの力が必要と思う。

また新たな令和4年度に向けて、その時まで皆さん考えてきて進めていただければと思う。

（閉会）